

令和7年度（第1回）山陽小野田市地方創生協議会会議 会議録	
開催日時	令和8年1月29日（木） 書面開催
出席委員	山陽小野田市地方創生協議会委員 11人 ※意見聴取票の返信をもって出席とみなす。
協議概要	
<p>1 議事</p> <p>議題(1) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の検証について【資料4】</p> <p>議題(2) デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗及び重要業績評価指標（KPI）について【資料5】</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	

委員の皆様からいただいた御意見等について	
委員 意見、質問	事務局 回答
<b>(1) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和6年度の検証について</b>	
<b>○基本目標1：定住に結び付く就業環境を整え“安定した”雇用をつくる</b>	
「(2)活力ある地域産業振興及び中小企業の支援」について 「市就職説明会・面接会への参加者数」及び「市内事業所訪問数」の達成度がDとなっているが、その要因は。 (周知不足により情報が浸透していない、目標値に対して実際のニーズが少ない等)	就職説明会・面接会については大規模なイベントとして開催するのではなく、就職に結びつきやすいよう、小規模な面接会を複数回開催することとしたため、参加者数が伸びていない状況となっております。 事業所訪問数については、必要に応じて訪問を行っており、目標値が回数となっているため達成度が低くなっておりますが、必要なコミュニケーションは取れているものと考えております。
企業地や働く場の確保、商工業の振興においては専門的な人材の活用が必要だと考える。	今後の施策推進の参考にさせていただきます。
就業対策分野の達成度が低迷している。県や近隣行政等との合同就職説明会の実施を検討してはどうか。	既に一部は広域で実施しておりますが、より効果的な開催方法について検討してまいります。
令和7年3月新規高卒者の就職内定状況をみると就職者全体に占める県内就職比率は81.2%で前年の83.8%から2.6%低下している。 コロナ禍では一時期県内就職率が改善したが、若者の県外流出が続いている。 就業環境を整えると共に、小中学校の時期から地元企業を知ってもらい、就職先を選択する際に地元企業を希望してもらえるようにすることも必要だと考える。 山口労働局が実施した大学生を対象とした「山口県内就職促進のためのアンケート」では、「山口県での就職・起業で不安なこと」の第2位に「山口県の企業を知らない」（第1位：娯楽が少ない）があり、山口県内の企業を知ってもらうことが必要だと考える。	キャリア教育の観点からも、小中学校段階からの地元企業への理解促進は重要であると認識しております。関係各課と連携し、取組を進めてまいります。
就業対策として説明会・面接会への参加数が伸び悩んでいる一方、市内企業は人材不足の状況と考える。 必要な人材（専門性等）のマッチングに繋がる形での企業訪問、説明会・面接会の実施が必要なのではないか。	企業の人材ニーズと求職者の専門性とのマッチング精度を高めることは重要な課題と認識しております。今後の事業実施において、より効果的な手法を検討してまいります。
中小企業振興資金等融資の枠について、令和7年度について利用が増加したため、期途中で利用できなくなっている。 今後の対策として利用可能枠の増額あるいは補正等により対応できないか。	融資枠の不足ではなく、保証料の補給が予算額に達したため申込を中断させていただいております。今後は可能な限り予算の確保に努めてまいります。
<b>○基本目標2：「学びの力」や観光資源等を活かした“魅力”により新しい人の流れをつくる</b>	
「(1)山陽小野田市への還流及び幅広い世代の移住・定住の促進」について 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができる」に「当てはまる」の達成度がCとなっている。 考えを深める・広げることは、将来を考える上でも重要で、生涯を通じて役に立つことだと考える。達成度向上に繋がるよう、学校教育の関係者へ呼びかけ・支援をお願いしたい。	児童生徒が主体的に対話し思考を深める活動の質的向上に向け、学校現場への働きかけや支援を強化してまいります。
1人1人の意見や考え方が尊重されることで、児童生徒の自己肯定感が高まり、自信をもって自分の主張が伝えられるようになると思う。	今後の施策推進の参考にさせていただきます。
「学校教育の推進」において、体験型学習の頻度をあげていけば、「考える力」が向上していくと感じる。	今後の施策推進の参考にさせていただきます。

委員 意見、質問	事務局 回答
<p>各地域において、異業種間の交流で連携し、食を中心に共通の産品を創作し、市街からの買い物・飲食の客を呼び込むことが重要だと考える。  (例：殖生、津布田地区であさり貝繫がりで商品・料理を共通化し、市内外にPR。みちしおの貝汁、サンヨーの貝類販売、浜てんぶら屋の貝汁おでん等)</p>	<p>地域資源を活かした魅力的な産品開発は重要であると認識しております。関係団体とも連携し、今後の施策の参考にさせていただきます。</p>
<p><b>○基本目標3：結婚・出産・子育ての希望を実現し“まちへの愛着”をつくる</b></p>	
<p>「安心して子育てできる総合的な環境整備」のKPIの半数が達成度Dとなっている。その要因は。</p>	<p>「子育て総合支援センター利用者数」及び「ファミリーサポートセンター利用延べ件数」については、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化、また、予測以上の出生数の減少により、目標値と利用件数等に乖離が生じていることが大きな要因です。  「保育所待機児童数」については、受入体制の整備を実施し、減少傾向にはありますが、目標値には大きく届いていないことが要因です。</p>
<p>「(1)安心して子育てできる総合的な環境整備」について  「子育て総合支援センター利用者数」「ファミリーサポートセンター利用延べ件数」について  達成度がDとなっているが、その要因は。  (周知不足により情報が浸透していない、目標値に対して実際のニーズが少ない等)  「困っていたけど存在を知らなかった」ということが無いようお願いしたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化、また、予測以上の出生数の減少が要因と考えています。コロナ前の利用者数や利用件数まで回復はしていませんが、「子育て総合支援センターの利用者数」は、令和4年度以降、回復傾向にあり、開館日の増加やSNSを活用した周知等の利用促進にも取り組んでいます。「ファミリーサポートセンター利用延べ件数」については、令和6年度は大きく減少しましたが、現在は、会員数、依頼件数共に増加しています。今後も、安心して子育てできる総合的な環境整備に取り組んでまいります。</p>
<p>未来を担う若者世代が「小野田で働きたい」「地元が好きだ」という気持ちを持って市の魅力や、子育て支援を拡充することが、安定した雇用や市の発展につながるのではないかと。</p>	<p>総合戦略の各施策を通じて、若者世代に選ばれるまちづくりを推進してまいります。</p>
<p>地域の行事やお祭りが減少し、子ども会の数も減少し続けている。市の子育て支援内容の周知や拡充が必要だと考える。</p>	<p>今後の施策推進の参考にさせていただくとともに、広報・SNS等を活用し、更なる子育て施策の周知に取り組んでまいります。</p>
<p>夫婦を増やすための後押しを行政が先頭になり積極的に進め、経済的に安心して出産出来るよう支援を行うことが重要。  子育てに関する施策は従来の方針をさらに強化し、最終的には、出会い、結婚、出産にかかる全ての費用を無償化することが望ましい。</p>	<p>結婚から子育て期までの切れ目ない支援の重要性は認識しており、国の動向等も注視しながら、経済的負担の軽減策を含め、施策の充実に向けてまいります。</p>
<p>「子育て支援の充実」に係る実績値の達成度が低迷している。他の自治体等での優良事例を参考にした仕組みづくりの必要性が必要ではないかと。</p>	<p>他の自治体の先進事例についても調査・研究し、本市の実情に合った効果的な施策の導入を検討してまいります。</p>
<p>自分の住んでいるところ（自治会等）を知ることで、いろいろな支援の輪が広がると考える。</p>	<p>小中学校においては、社会科や生活科、総合的な学習の時間で地域のことを学ぶ機会があり、地域の方と連携しています。また、市民に向けては、地域交流センターで地域の歴史講座や歴史探訪を行うことで、引き続き、地域への愛着を醸成するよう取り組んでまいります。</p>
<p>「(2)次代につなぐ教育環境の充実」について  「不登校児童生徒数の割合」が3.4%となっている。  登校しやすい環境づくりへの支援はもちろん、不登校でも学びを得られる機会や、誰かしらとコミュニケーションが取れるような環境づくりへの支援も重要だと考える。</p>	<p>多様な学びの場の確保や、児童生徒が安心して過ごせる居場所づくりについて、関係機関とも連携し支援の充実に向けてまいります。  また家庭教育支援チームによる保護者向けの相談機会の提供や就学時健診の場における子育て座談会の開催等を通じて保護者の方が一人で悩まないよう取組を進めてまいります。</p>
<p><b>○基本目標4：持続可能で元気な“住みよい”地域社会をつくる</b></p>	
<p>市広報やホームページの積極的な活用が、日ごろ経験できない楽しいことや様々な出会いに繋がると感じているため、さらなる周知をお願いしたい。</p>	<p>市の魅力発信については、市観光協会のホームページやインスタグラムを通じて、引き続き効果的な情報発信に努めてまいります。</p>
<p>クラブ活動の地域移行については、その担い手、活動する場の確保や移動手段、体制をしっかりと整えていく必要があると考える。</p>	<p>生徒や保護者の負担、指導者の確保等の課題に対応しながら、持続可能な体制の構築に向けて検討を進めてまいります。</p>

委員 意見、質問	事務局 回答
「地域おこし協力隊の隊員数」との比較においても「地域の夢プラン作成数」が1件で達成度Sなのは違和感がある。	「地域の夢プラン作成数」が目標達成したためS判定といたしました。「地域おこし協力隊の隊員数」についても、目標達成できるよう引き続き取り組んでまいります。
各項目の目標達成度は高いと思われる。引き続き魅力ある地域社会づくりの推進をお願いしたい。	今後の施策推進の励みとさせていただきます。
<b>(2) デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗及び重要業績評価指標 (KPI) について</b>	
<p>「②デジタルの活用によりやまぐちの魅力あるしごとに繋ぐ産業人材定着・還流推進事業」について  「若者等向け地元企業合同就職フェアや合同面接会の開催」は資料4の「市就職面接会の開催」の数と連動しているのか。  また、実際に就職に結びついたかなどの情報は持っているか。</p>	<p>資料4の数と連動しております。  面接会参加者のうち、就職に結びついた人数については把握しておりません。(令和6年度は6名採用。)</p>
<p>「②デジタルの活用によりやまぐちの魅力あるしごとに繋ぐ産業人材定着・還流推進事業」について  「デジタルの活用」とあるが、具体的にどのような活用をされたのか。</p>	<p>この事業は山口県が中心となり、複数の自治体が山口県への人材の定着を図る取組を行うものです。山口県が実施主体となっており、デジタル技術を活用した企業と学生の交流イベントの開催やオンラインインターシップの開催等が行われており、市もこれらの事業に協力するなど広域的な取組を行っております。</p>
<p>「③「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト」について  事業の参加者数等、詳細があればお聞きしたい。</p>	<p>別紙「「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト」をご参照ください。</p>
<p>広域での事業実施の概要が、資料だけでは読み取れなかった。  交付金事業の詳細はわからない方が大半だと思うので、金額等も踏まえたわかりやすい説明が必要だと考える。</p>	<p>今年度においては会議を書面開催にしたことにより、より詳細な内容の資料が必要だったと反省しております。今後の対面開催の会議においても資料の構成内容等について工夫改善に努めてまいります。</p>
<b>(3) その他の御意見等</b>	
<p>資料4全般の「〇〇の参加者数」「〇〇の利用数」等で達成度が低いものは、SNSや広報誌など情報発信が不足しているものがあれば、そういった媒体も活用して情報の浸透を図ることが重要ではないかと考える。  (「シティーセールス・移住定住の推進」における「市公式ホームページ、SNSのビュー数」は達成度がAで閲覧者も多いので、そういった媒体なら情報が浸透しやすいのでは)  「困っていたけど存在・情報を知らなかった」ことが無いよう、情報浸透の取り組みをお願いしたい。</p>	<p>目標未達の要因の一つとして情報発信の課題があると認識しております。ホームページやSNS等の媒体を効果的に活用し、必要な方に情報が届くよう周知方法を強化してまいります。</p>
<p>この時期に令和6年度の検証は遅いのではと考える。</p>	<p>例年この時期の実施となっていることについて、今一度開催の時期を検討させていただきます。</p>

# 「山口ゆめ回廊」観光を基軸とした交流価値共創プロジェクト

## 1 スマイルゆめ散歩

(1) 世界に一つだけのガラス作品作り & おしゃれなレストランでティータイム

実施日：令和 7年 3月15日（土）【不催行】

※最少催行人員に達しなかったため、不催行

(2) 『スペシャリスト』と行く竜王山ネイチャーツアー

竜王山を歩き、山野草や薬草などについて学びながら自然と触れ合うツアーを実施した。気候にも恵まれ、多数のアサギマダラを確認できた。

実施日：令和 6年10月 6日（日）【催行】

令和 6年10月12日（土）【催行】

参加者数：7名

## 2 観光プロモーション（インスタグラムハッシュタグキャンペーン）

山陽小野田観光協会インスタグラム和歌コンテストを実施し、本市の認知度を高めるとともに、観光の魅力を多くの方に知ってもらうことで観光誘客の促進を図った。

また、新規のフォロワーを獲得し、今後のインスタを活用した観光情報の発信をより効果的なものとすることができた。

(1) キャンペーン名：「写真で一句こんてすと」

(2) テーマ

① 「お題で一句」部門

お題の画像から選んで投稿

お題：幸せの鐘、レノファ、花の海「コスモス」、競技かるた、三年寝太郎、くぐり岩

② 「山陽小野田で一句」部門

山陽小野田市内で撮影された写真に一句

(3) キャンペーン期間：令和 6年 9月 1日（日）～10月31日（木）

(4) 投稿者数：53人

(5) 延べ投稿写真数：92回

(6) 新規フォロワー数：262人

### 3 キッズサマーパス

圏域住民を対象に、山口ゆめ回廊の認知度向上、圏域の魅力の再認識を図ることを目的とし、夏休み期間中において、圏域内の観光・文化施設の子どもの利用料金無料化・割引又は来場者特典を付与するなどの取組を実施し、圏域住民の周遊促進を図ることができた。

#### (1) 利用者数

7市町合計：2,184名（大人514名・子ども1,670名）

※対前年117.2%

#### (内訳)

- ・ 山口市279名（大人59名・子ども220名）
- ・ 宇部市142名（子ども142名）
- ・ 萩市137名（大人64名・子ども73名）
- ・ 防府市169名（大人85名・子ども84名）
- ・ 美祢市549名（大人253名・子ども296名）
- ・ 山陽小野田市768名（子ども768名）
- ・ 津和野町140名（大人53名・子ども87名）